



◆謹賀新年

東和通訳センター センター長 中牟田 和彦

医療機関の皆さまにおかれましては年末年始に関係なく業務に従事された方も多くおられたこと
と思います。深く感謝申し上げます。Medi-Way もその際には少しでもお役に立てるよう医療通訳
対応をさせていただきました。さて、今号は医療通訳事業へのアドバイスや遠隔通訳にご協力を
いただいているお二人にご登場いただきました。本年も一人でも多くの方に安心がお届けできます
よう通訳者一同、努力を惜しまず頑張ってまいります。引き続きよろしくお願ひいたします。



◆医療通訳の極意

りんくう総合医療センター 国際診療科 部長
南谷 かおり



患者にとって主治医は一人から数人ですが、
医師にとって患者はたくさんいます。それ
ぞれが持つ知識や背景は異なり、性格も十人
十色です。そのため医療者はそれを見極め、各自に合っ
た話をしなければなりません。同じように医療通訳者にと
っても通訳する外国人はさまざまです。更に同じ言語
であっても、国、文化、宗教などが違うことで行動や
考え方が解り辛いこともあります。しかし、通訳者だけ
が患者の言葉を直接聞くことができ、本当の思いに気付
くこともできるのではないのでしょうか。外国人の話し方
や使う単語によって各自の知識レベルや出身地などが
垣間見えることがあります。日本語への訳出は同じでも、
もとの言葉でしか得られない情報があるはず。医療
通訳者には単なる通訳だけでなく、唯一無二の活躍を
期待しています。

◆安心な医療サービス

NPO 法人 多言語センター FACIL 理事長/
名古屋外国語大学 教授 吉富 志津代



医療現場で安心して医療サービスを受
ける権利が誰にでもあるということは
原理原則のはずです。にもかかわらず、
国レベルの医療通訳制度がまだない日本で、兵庫県
におけるシステムを構築すべく、FACIL では助成金
を得てモデル事業を続けて18年になります。4年前
からは、Medi-Way と連携をさせていただくこと
になり、特にベトナム語では、Medi-Way のメンバ
ーとしてFACIL の事務所に通訳者が常駐しています。
これにより、兵庫県内の協定病院のコミュニケーショ
ンの選択肢が増えたことで、制度づくりに向けた
活動も加速することになってきています。医療通訳
という役割を当たり前存在にしていくための心強
いパートナーとして、これからもよろしくお願ひ
します。

今月のトピックス



「お正月の過ごし方 Vol.1」



お正月、皆さんはいかがお過ごしでしたか。

ラテン系の国々では、クリスマスの方がお正月よりビッグイベントだけど…と言いながら、スペイン語&ポルトガル語の通訳者から話題に出たのは「年越しのカウントダウンセレモニー!」。元々スペインの習慣らしいのですが、真夜中の12時の鐘に合わせて12粒のぶどうを1つずつ食べます。12粒は新年12か月を意味して、全部食べるとその年は縁起がいいとか。そしてあちこちで花火が上がリ、サイレンが鳴ったりしてとても賑やかに。でも花火のやけどで救急病院は1年で一番忙しい夜になるそうです(^_^);

ブラジルでは、パーティー好きのお国柄でまさにパーティー三昧。クリスマスからお正月へと、ちょうど南半球は学校も夏休みなので、家族や友人たちととても賑やかに過ごす1週間だそうです。ポルトガル語通訳者によると、ブラジルでは民間信仰の海の女神を称える白い服を着て大晦日を過ごす習慣もありますが、移民の多い国ですから、日系人のおうちでは紅白歌合戦の年越し、のように多種多様な文化が見られるようですよ。

一方**アメリカ**はやはりクリスマスがメイン。クリスマス時期に長期の休みを取る人も多いので、お正月は2日からもう通常勤務に戻るそうです。年越しの際には、時差の関係で別の場所に住む友人たちとカウントダウンを複数回楽しんで、ハイテンション!という人も。その反動で元日は二日酔いからのリハビリの日なのか、静かに過ごすようです。

中国とベトナムのお正月はと言うと、旧暦で祝う、いわゆる旧正月です。ある年は1月末、ある年は2月中旬と毎年異なります。この話はまた次号にお届けします、どうぞお楽しみに!

